

アメリカ地理学会 (AAG) 2014 年大会 (4 月 8-12 日 : フロリダ州タンパ市)  
研究報告募集のお知らせ

### The Fukushima Disaster : Three Years Later (フクシマ : 3 年後のいま)

2011 年 3 月 11 日の東日本大震災は、日本の福島において、歴史上、稀な原子力事故 (災害) を引き起こした。

災害に関する日本における新聞での報道は、次第に減少しているものの、事故は、依然として継続し、収束の見込みはたっていない。事故は、地理学や関連諸分野に対して、不運ではあるが、非常に重要な様々な課題を提供している。

このセッションは、福島を巡る複雑かつ多面的な災害に対する我々の理解について、見解を共有し、理解を深める機会を提供することを目的とする。内容に関しては、福島における事故・災害の様々な側面に注目した研究報告、またその理解を深める上で有用な、福島以外における (現在、過去を問わず) 原子力事故・災害の経験や教訓に関する報告を幅広く募集したい。

主要な論題を以下に示すが、必ずしもこれらに限らない。

- ・災害や事故についての、歴史・地理的あるいは政治・経済的な背景や経緯
- ・災害や事故についての、被災地である福島やその周辺における、現在の状況や問題
- ・災害や事故における、被災者や避難者の空間的かつ社会階層的に差異化された経験
- ・除染や復興の試みと課題
- ・災害や事故とその余波に関するメディアの扱いと情報公開
- ・復興計画の予算に関する政治的含意や実践的課題
- ・反 (脱) 原子力に関する社会運動や原発に関する世論動向
- ・福島以外の国・地域における原子力や類似災害・事故の経験や教訓
- ・原子力発電に関する国際政治や地政学
- ・産業・貿易政策あるいは戦略としての原子力発電
- ・発展途上国における原子力発電計画と国民・地域住民の対応
- ・原子力災害や事故が地理学にもたらす、理論的あるいは研究手法上の含蓄や課題

興味、関心、質問などのある方は、山本大策 ([dyamamoto@colgate.edu](mailto:dyamamoto@colgate.edu)) または藤本典嗣 ([fuji@sss.fukushima-u.ac.jp](mailto:fuji@sss.fukushima-u.ac.jp)) にお気軽にお問い合わせください。参加ご希望の方は、報告要旨のドラフト (英文:250 語) を 2013 年 10 月 1 日までに山本か藤本宛にお送りいただきます。その上で、報告要旨の最終版を 12 月 3 日までに AAG の公式サイト (<http://www.aag.org>) を通じて提出していただきます。また大会の早期登録割引を適用するためには 10 月 23 日までに、同サイトで参加登録をする必要があります。

なお、この大会でのセッションは、アメリカ地理学会の会員でなくとも、エントリーや報告は可能です。地理学に関する学術大会では、IGU とともに、事実上の国際学会となり、世界各国・各地域から地理学やその関連の領域の研究者が、毎年参加しています。日本からも、近年では、毎年、20~30 名程度の参加があります。昨年の同大会では、福島関連を含めた東日本大震災関連の報告は高い関心を集めました。震災から 3 年が過ぎる来春、日本の研究者が様々な見地や立場から福島の現状や展望を語り、また国外の研究者との意見交換をすることには大きな意義があると思います。ふるってのご参加をお願いいたします。